

## 【What's 類型】

今回の類型は…「B2」です。イラストを見るとなかなかイメージしづらいですが、低学年でも実践できるものです。今回も図は文部科学省の「学びのイノベーション事業」実証研究報告書を引用しています。

ここが  
POINT

校外学習や観察・実験の場面で、児童用のタブレットのカメラ機能を使って訪問先や観察したい植物などの記録をする。  
・ネットやデジタル教科書を使って、必要なことを調べたり、同じ話題に対して、複数の資料から情報を得たりすることで、いろいろな方向から事象を考えるきっかけになる。

《ICT！（いまこそ、チェックタイム）》

- 児童がカメラ機能（画像・動画）の操作ができる。
- カメラ機能によって撮影されたデータの保存場所が分かり、再生できる。
- インターネットの検索のポイントを児童に説明できる。
- 授業中に使えるサイトを児童と共有（リンクの紹介等）できる。



参照：「令和2年度版 とっとり ICT 活用ハンドブック」 鳥取県教育委員会

## 【 ICT 活用実践紹介】

【花里小 岡田の実践】

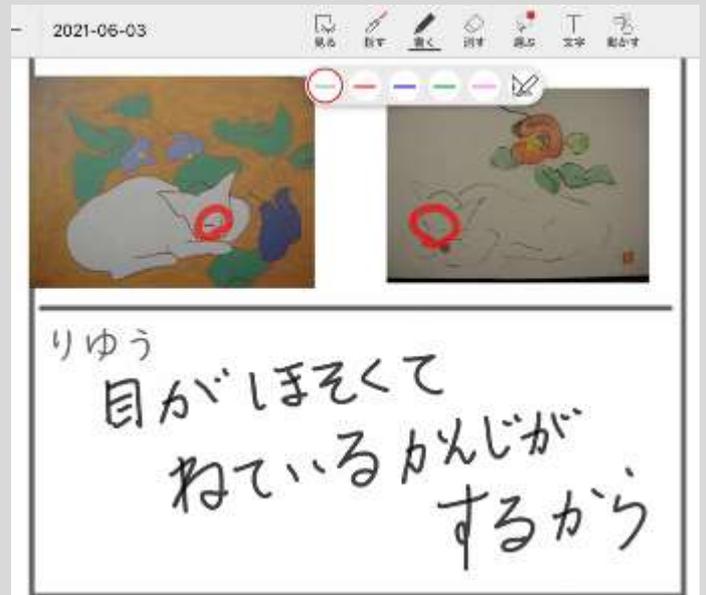
教科：図画工作科

活用ツール：「metamojiclassroom」

類型：B3（個別学習：思考を深める）

内容：ねこだねこ！？ねこねここねこ（鑑賞）

1. 【準備】「個別レイヤー」に並び替えができる画像を準備して「ノート」を作成する。
2. 【授業】児童が「動かす」を使い画像の並び替えをする。
3. 【授業】細かく見たいところを拡大、見つけた部分をマークする。
4. 【授業】自分の「ノート」を使って交流する。



## 【岡田のおもいつ記】

今回の実践では、作品を見て自分なりの見方や感じ方などの根拠をもって仲間分けができ、楽しく作品を見ることを目的としています。その「根拠」の部分を確認に仲間へ伝える手段として ICT を活用しました。資料の拡大、縮小が簡単かつ自由にできるので、「細かく見てみよう。」「他にはないかな。」という児童の願いを解決できると感じます。「できれば本物に触れさせたい…」ですが、いろいろな制限があります。その制限を取り払ってくれるのが ICT 活用だとおもいます。

ちなみに作者は岐阜県出身の熊谷守一さんです。気になる方はぜひ本物を…